２０１２．０８

チャイナ夏キャンプ

発行：FIWC 九州　チャイナキャンプ

目次

FIWC 九州について　P2

ハンセン病について　P3

中国キャンプについて　P4

ハンチョン村　P5,6

日程　P7

タイムスケジュール　P8

村人紹介　P9,10

中国人キャンパー紹介　P11,12

ワーク　P13-15

ハウスワーク　P16,17

ケア　P18

エンターテイメント　P19

JIA AGM　P20

キャンプ T シャツ　P21

保健報告　P22

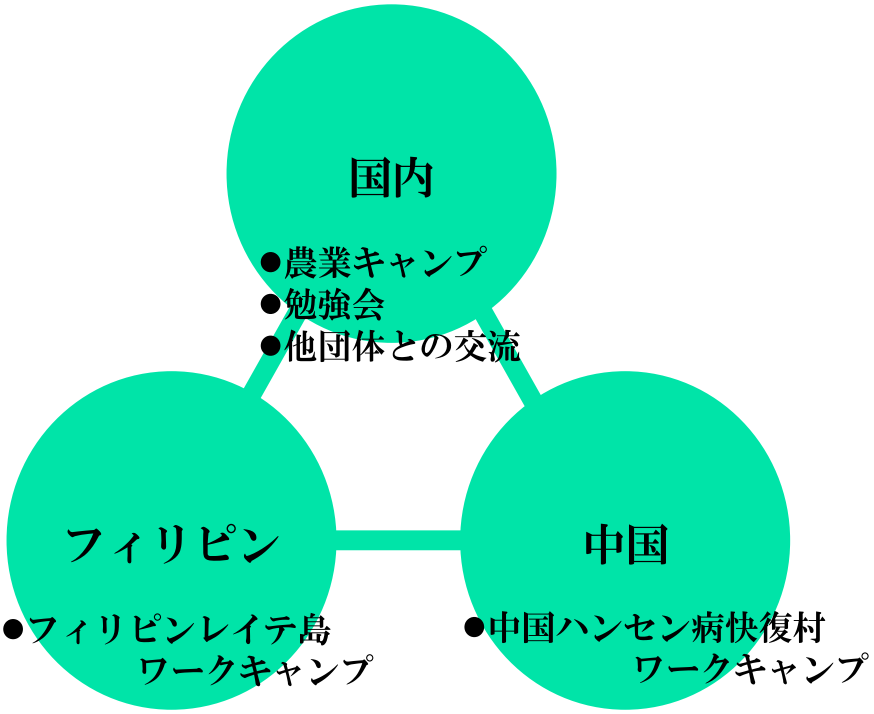
会計報告　P23

反省　P24

日本人キャンパー紹介　P25,26

感想　P27-32

１． FIWC 九州について



世界の問題を現地住民と一緒に解決に向けて取り組むこと、国内外を問わず世界の人々の相互理解の促進に努めることの２つを目的とした団体である。2005 年春に行われたフィリピンキャンプを始めとして、現在では中国、国内を合わせた三つの地域を中心として活動を展開している。

【中国】

【フィリピン】

現地 NGO『NorWeLeDePAI』と地方政府の協力のもと、農村部貧困地域にてインフラ整備(水道や橋などの建設)を行っている。

【国内】

大分県耶馬渓での農業キャンプ、毎月開催する勉強会(FIWC Party)、他学生団体や NGO 団体とのイベント開催や情報交換などの交流を行っている。

２．ハンセン病について

ハンセン病はらい菌という細菌によって引き起こされる感染症の１種である。「らい菌」は、人間の体内に侵入すると主として皮膚及び末梢神経に増殖性炎症を引き起こす。それにより、知覚麻痺、運動神経障害、顔面・四肢等の変形、眼の障害などの症状が現れる。こういった外見からわかる症状により、ハンセン病患者は差別の対象となってきた。しかしらい菌は感染力が弱いため、私たちがらい菌に感染しても通常は発症することは無い。

1980 年以降、世界保健機構（WHO）は、ハンセン病蔓延国に向けたグローバルな対策として、多剤併用療法（MDT）を推奨している。MDT により、らい菌は数日で死滅し、早期に治療すれば後遺症を残さずに完治する。

～日本のハンセン病について～

日本では 1930 年頃から、ハンセン病患者たちを強制的に隔離していった。その根拠となったのが「らい予防法」であり、この法律は 1996 年まで存続した。予防法が廃止された後、国がこれによって行った強制収容、終身隔離、患者作業、断種などの人権侵害に対して謝罪を求める気運が高まり、「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟が起こされ、原告である元患者側が勝訴した。しかし予防法が廃止され、国の責任が明らかになった現在でも、隔離前に暮らしていた故郷に帰って生活できる人は少ない。元患者の平均年齢は今や約 80 歳となり、全国の療養所で暮らす入所者も年々減少している。

～中国のハンセン病について～

中国には、南部を中心に 625 にも及ぶハンセン病快復村がある。中国では日本の予防法に該当するような法律が存在したわけではなかったが、社会におけるハンセン病の理解も乏しく、また中国において有用な治療法が普及していなかった時代は隔離政策がとり得る唯一の政策だった。現在でもハンセン病患者に対する差別･偏見は根強く残っており、病が治癒しても社会復帰ができず、快復村内で暮らすことを余儀なくされている人は、中国全土で４万人にも上るといわれている。

彼らの生活は地方政府から支給される生活給付金に依存しているが、その額は地方により異なり、少額しか支給されない地域もある。今も倒壊寸前の家屋で、清潔な水を供給する設備やトイレ、電気すらない環境での生活を余儀なくされ、後遺症に苦しみ、孤独に生活している高齢の村人が大勢いる。

３．中国キャンプについて

FIWC 九州の中国キャンプでは、現地 NGO『家-JIA-』の桂林地区の中国人学生と共にハンセン病快復村にて 1～3 週間程度のキャンプを行う。かつてハンセン病にかかり山奥の農村に隔離された村人たちは完治した今もなお、後遺症や周囲の差別から、不便な生活を強いられているため、私たちは村人や中国人学生と共同生活をしながら、次のことを行う。

- ワーク…トイレ建設や水道設備設置などの村のインフラ整備
- ハウスワーク…後遺症のため困難となった、食事や洗濯などの日常生活の補助
- イベント…村人と楽しい時間を共有するためのパーティーの開催

ワークだけでなく、村人との交流をはかり、心から楽しいと感じてもらえる時間をつくることもこれらの活動を行う重要な意義である。

４．JIA について

JIA-家-ワークキャンプコーディネーションセンターは 2004 年にある日本人によって広州に設立された学生中心の団体である。
中国にワークキャンプを根付かせること、ワークキャンプの情報収集や共有を行うこと、個々のワークキャンプと世界各地の人や団体との繋がりを形成することなどを目的に活動している。
活動の主体は大学生であり、各地域に委員会が存在している。その中でも私たちは桂林地区の学生と共に活動している。

桂林キャンパーたち

JIA の会議の様子

★ハンチョン村について

場所：広西省壮族自治区贵港桂平市

蒙圩から山道を約 2 時間半登ったところにある。
過去には最多で約 300 人の人が住んでいたらしい。
山道は幅が狭く凹凸が激しいため、雨の多く降る梅雨の時期は特に危険。
しかし、自然が非常に豊かで近くには美しい泉や大きな滝がある。

村人：男性 4 人、女性 1 人

政府からの受給金額(1 人当たり)：250 元 /月(日本円で約 3000 円)
少額のため、薬などの高額なものはなかなか購入することが出来ない。

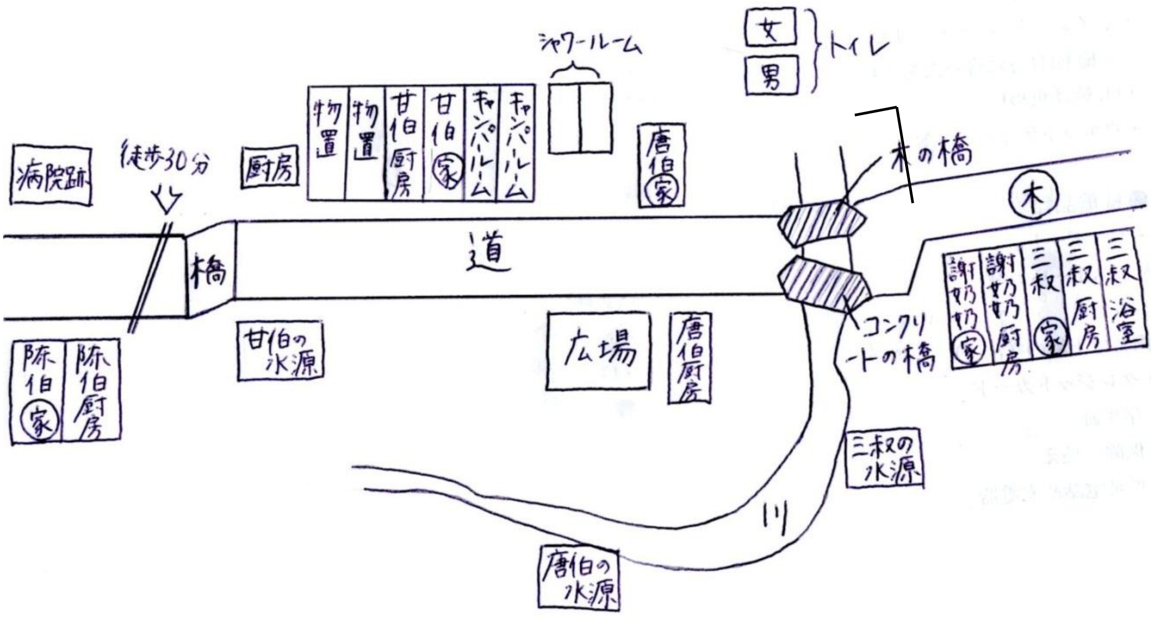
食材の調達には村人の 1 人がバイクで市場(蒙圩)にまで買いに行っている。
また、農業や養蜂、養鶏をしている村人もいる。
後遺症の度合いは人により異なり、村人の 1 人は自活が困難なため隣に住む村人が食事・洗濯などの世話をしているが、皆明るく精神的には健康である。

環境

村には電波が入らず、歩いて 30 分のところでようやく入る。
またソーラー式の電気(電球)が導入されているが、明かりは十分でなく、天気の悪い日にはすぐ切れてしまうため夜 7 時位からあたりは真っ暗。
2008 年のキャンプによって男女別のトイレが作られたので、トイレに問題はない。
村の近くに病院はなく、重大なケガ・病気の場合はバイクで 30～40 分の蒙圩にある病院に行く必要がある。
4 人の村人の家の前には水道が引かれているが、残り 1 人は水汲み場まで汲みに行っている。

★村の平面図

キャンパールーム　外観　　トイレ(和式)　　木の橋



水汲み場　　広場　　三叔の家・厨房　外観

★日程

8/11 佐賀有明空港→上海浦東空港(2 時間)　上海虹橋空港→広州白雲空港(2 時間半)
広州白雲空港→広州東駅(地下鉄 1 時間)
空港で中国人キャンパー3 人と落ち合い、広州東駅近くのホテルに 1 泊

8/12 広州東駅→貴港駅(電車 10 時間)
貴港駅近くのホテルにて参加キャンパー全員が集合し、1 泊

↑中国の電車

8/13 貴港のホテル→蒙圩(バス 1 時間半)
蒙圩の市場にて食材の調達
蒙圩→旱冲村(トラック 45 分、徒歩 20 分)

8/13～8/20 キャンプ

↑トラックで旱冲村まで！

8/21 旱冲村→貴港のホテル(徒歩 3 時間、バス 1 時間)
貴港駅にて大半の中国人キャンパーとお別れ
その後、ホテルに 1 泊

8/22 貴港駅→広州駅(電車 10 時間)
広州駅→大学城南駅(地下鉄 1 時間)
駅近くのホテルで 1 泊

↑帰りは山下り♪

8/23 大学城南駅→石碁駅(地下鉄 20 分)
8/23～8/25　JIA　Annual General Meeting

8/26 石碁駅→広州白雲空港(地下鉄 1 時間半)
広州白雲空港→上海虹橋空港(2 時間半)
上海虹橋空港→汉中路駅(地下鉄 45 分)

8/27,28 上海観光
8/29 汉中路駅→上海浦東空港(地下鉄 1 時間半)
上海浦東空港→佐賀有明空港(2 時間)
佐賀有明空港→佐賀駅→博多駅

★タイムテーブル

①特記事項

時間について、おおよそのスケジュールはあらかじめ決まっていたが、天候などの不安定要素に対応するため変更されることがたびたびあった。迅速で臨機応変な対応によりスケジュールの変更による混乱などはほとんどなかった。

②全体のおおまかな流れ

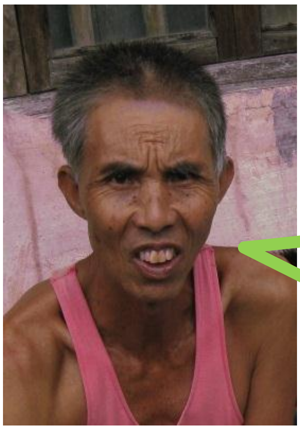
村でハウスワークやワークなどの実質的な活動を行ったのは 8/13~20 の期間である

8/12~13　中国人キャンパーと合流、村に移動しキャンプの準備を行う
8/14~15　村人への訪問とアルバムボックスの作成 ナイナイのスペシャルケア,
チェンボウの家近くの道の舗装
8/16　村人への訪問　洗濯の手伝い、サンスーの家の土台部分の修復等
8/17　free day!!　ハンチョンカップ開催等
8/18~19　村人の家の飾り修復、木を切る(薪等に利用),ナイナイの家の前の蛇口の修理
8/20　村人への訪問、お別れパーティー
8/21　村から貴港に移動

③一日の流れ

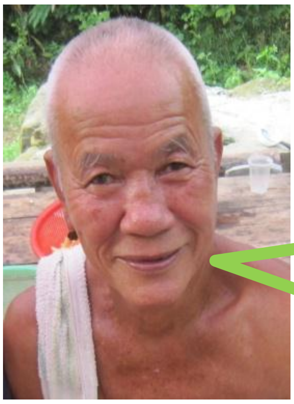
時間	内容	備考
6:40~	起床	朝食係の人は 6:20 起床
7:15~7:35	朝の体操	
7:35~8:00	朝食	
8:00~12:30	ハウスワーク、ワーク	状況に応じて開始時間が変更（9:00~）
12:30~14:30	昼食、休憩	昼食係は 10:30 から準備
14:30~18:00	ハウスワーク、ワーク	気象状況に応じて開始時間が変更(15:00~)
18:00~20:30	夕食、シャワー	夕食係は 16:30 から準備
20:30~23:30	日本人、全体ミーティング ゲーム	ゲームは一日おきに実施
23:30	就寝	

★村人紹介



チェンボウ（陈伯）

とてもシャイなおじいちゃん。一人だけ少し遠いところに住んでいる。村で一番若い。猟など趣味が多いので家を訪ねた時にいないこともあるが私たちに会ったときはいつもにっこり笑ってくれる。今年はおいしい果物をたくさん食べさせてくれた。

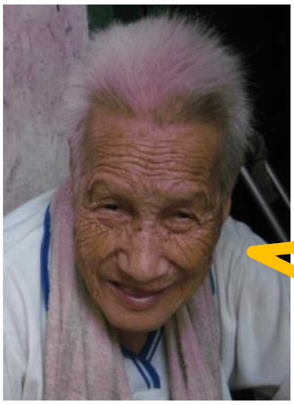


ガンボウ（甘伯）

パイプたばこが似合う、ワイルドでかっこいいおじいちゃん。ガンボウの家の隣にキャンパールームを借りているため交流も多く、一緒に料理を作ったりワークを手伝ってくれたりアドバイスもくれる。なんでもできて頼りになる存在。

タンボウ（唐伯）

いつも笑顔のおじいちゃん。バイクを乗りこなし、バイクで買い物に行くこともできる。タンボウの家にはよくキャンパーがチャイニーズチェスやトランプをしに遊びにきている。キャンパーの名前を覚えようと積極的に名前で呼んでくれる優しいおじいちゃん。



シェーナイナイ（謝奶奶）

愛らしいおばあちゃん。村で唯一の女性で最年長である。手足が悪いので生活にはサンスーの手伝いが必要だが食欲旺盛でとても元気だ。シェーナイナイの肌の気持ちよさは誰にも負けない。ナイナイが笑うと周りも自然と笑顔になる。

サンスー（三叔）

小柄でかわいいおじいちゃん。
料理上手でご飯に招待してくれたり、毎日シェーナイナイのご飯も作っている。独学で医学の勉強もしており、キャンパーが病気や怪我をしたときは治療してくれる心強い存在。

★中国人キャンパー紹介

三金(サンチン)

小さい体からどうやってそんなエネルギーがというくらい朝から晩まで優しく元気に行動します。初日からずーと一緒にいましたが、最終前夜にはちゃっかりチャイナラブを完結させたという疑惑もあったりなかったり！？

康平（カンピン）

『俺は媚びない』が代名詞？　何でもそつなくこなすクールガイ…ご飯作るのはちょっとだけ苦手かもある意味ギャップ萌えを狙っているのでは？と思わせるほどかわいい笑顔で忽ちみんなから愛される存在に

朝嵐（チャオラン）

男女隔てなく紳士であり続ける朝嵐、まさに「やさ男」の称号がふさわしい　さらに男らしく且かわいいという反則的存在　キャンプ後半からは僕（ぽん）のことをいじる技術も身につけていた模様。。。汗

小斌(シャオビン)

考えている時の仕草が印象的　ワーク中は指揮を執り率先して頑張るも、普段はとても優しくて話しやすい。川で水浴びしてると風邪ひくからと本気で叱ってくれる、そんなお兄ちゃん的存在です☆

←雪儿(snow:スノー)

とにかく元気な女の子！！と思いきや、途中からちょくちょく乙女な発言とやさしい雰囲気を垣間見せる様子　広州で衝撃の事実を打ち明け、一部キャンパーを当惑させた純情少女です

燕子（イエンツ）↑

体力、発想力ともに常軌を逸脱しているおてんば少女　自分でも I`m CRAZY!!といってのける大胆さ　4000 年の歴史が培った豪放磊落な行動、彼女の近くにいると楽しいことがよってきそうなそんな感じ！

←龙々（ロンロン）

ロン(龍)というより動きの素早さはサルといった方が的確かもしれない　しかし侮るなかれ、察しがよく英語も難なく話せる頭脳明晰さ、さらに男らしさも加わり、向かうところ敵なし!それがロンロンなのである

智超（father:ファザー）

いつでも元気でパワフルなファザー　昼夜問わずよく男同士の秘密談議に花咲かせました。とにかくテンションが超高い、一緒にいるとすぐに時間が過ぎてしまうくらい楽しい人です^^

桂子（グイズ）

いつも柔和でクールな雰囲気!?を醸し出していました。キャンパーだけでなく村人にも求められるグイズ　冬のキャンプと違い髪型がスキンヘッドに変わり印象もよりよくなったようです　笑

暁萱（シャオシェン）

Chinese beauty 双璧の一人　見た目のみならず声もすごく特徴的でかわいい少しシャイな子です^^　キャンプ中も作業をしっかりこなし、暗中飛躍に活躍という言葉が一番似合う、見てるとなんか和む感じだよ！！

小琳（シャオリン）

Chinese beauty 双璧の一人　世界を虜にするその美貌と健やかなる天然的性格はこれからの日中関係に大きな影響を及ぼす可能性すら考慮に入れるべきレベルに到達　ああ、君にあえてほんとに良かったよ！謝謝　笑

↑小航（シャオハン）

あのかの有名な迷セリフ I feel シリーズは彼の専売特許　キャンプ中の一番の人気者といっても過言ではない　coolu で smarto　な発言と行動の数々　思わず呼びたくなってしまうハーン　大好きだよハーン　笑

★ワーク

ワークとは？

チャイナキャンプでは、村人たちが村でより快適に生活できるようにするためにいくつかの土木作業を行う。これがワークである。村人のニーズに直接応じるという意味では、ワークの効果は大きい。過去のキャンプでは、トイレの建設や道の舗装などを行ってきた。

今回は２月の下見キャンプでの調査の結果をもとに日本人キャンパーと中国人キャンパーの間で事前にミーティングを行い、どのワークを行うかを話し合った。それらのワークの必要度や費用なども含めて考えた結果、今回の夏キャンプでは以下の４つを行った。

（1）　チェンボウの家につながる坂の修理

この坂は狭いうえに下のほうが崩れていたため、チェンボウがバイクで上り下りする際とても危険だった。今回のワークではまず道部分の面積を広げ、大きな石を取り除き均した後、コンクリートを使って新しい道をつくるという作業を行った。

BEFORE　　　　　　　　　　　　　　　AFTER

（２）コンクリート道のカーブ部分の拡張

　　このカーブの部分は狭く、バイクで通る際雨の日は特に滑りやすく危険であった。今回はまず周りの草を除いて均し、コンクリートで元の部分に沿って道を広げるという作業を行った。

BEFORE　　　　　　　　　　　　　　　　　　　AFTER

（２）サンスーの家の土台部分の修理

サンスーが家の裏側に行くときの通り道。しかし、壊れて通れる部分が狭くなっていた。コンクリートと石を使い、もとあったのと同じように積み重ねた。

BEFORE　　　　　　　　　　　　　　　　　　　AFTER

（4）ナイナイの家の前の水場

　ナイナイの家の前には水道があるが、それを利用する際に足元のコンクリート板がぐらつき不安定だ
った。今回は新しくコンクリート板をもう一枚作り、ぐらつかないように固めた。

ナイナイはここの水道でうがいをしたり顔をあらったりする。

★ハウスワーク

●ハウスワークとは？

ハウスワークでは、村人の精神面・生活面をより良くするために様々なことをする。ワークとは違い、目に見える形での成果はないことが多いが、人と人とが触れ合うという意味においてとても重要な活動である。

●主な活動

①訪問

ハウスワークの大部分を占める活動は、訪問である。村人の家を訪れて、話をしたりゲームをしたりする。話をすると言っても言葉が通じないので、中国人キャンパーに通訳をしてもらったり、身振り手振りでコミュニケーションをとったりする。村人は、キャンパーの訪問をとても歓迎してくれて、果物をくれたり、夕食をご馳走してくれたりする。訪問をすることで、村人との絆が強いものとなる。

②洗濯

村人の服や寝具、家具を洗った。後遺症のため自力で洗濯をすることが難しい村人がいるからである。寝具は長年洗われていなかったようなので、清潔にすることができて良かった。また、椅子などの家具も洗った。

③掃除

村人の家の中に、蜘蛛の巣が張っていたり、ほこりが積もっていたりするところがあったので掃除した。天井付近は、村人の手が届かないため特に汚れていた。箒を使って蜘蛛の巣をとった。また、水源から家まで水を引いている途中にある貯水タンクが汚れていたため掃除した。貯水タンクは急斜面にあるため、キャンパーによる掃除が必要だった。

④家の飾りの修復

以前のキャンプで、玄関や家の中を色紙で飾ったのだが、それが破れてしまっていたので修復した。鶴を折って壁にぶら下げたり、色紙で中国の伝統的な飾りを作って張ったりした。飾りを見るたびに、村人が私達キャンパーのことを思い出してくれると思うので、些細な作業ではあるが大きな効果をもたらすと思う。

⑤雑貨の制作

写真を入れるための箱と、服をとりやすくするための服かけを作った。キャンパーが写真をたくさん村人に送っているのだが、それを保管するものがなかったため、写真が汚れてしまっていた。そこで、写真を入れるための箱を作り、村人全員に送った。服かけは、後遺症のせいで思うように動けない村人のために作った。部屋の上部に紐を張って、服やハンガーをかけられるようにした。

⑥薪の確保

村にはガスや電気がないため、火は薪を使っておこしている。薪を調達するのは重労働なため、薪の確保を手伝った。村の裏の山から木を切り出して、それを細かく割った□

●まとめ

ハウスワークにより、村人とより近づけたと思う。訪問により絆ができ、家の装飾や写真入れにより私たちが村を去った後でも絆を強めることができていると思う。反省としては、訪問の時間が少なかったことがあげられる。今回は人数が少なく、やることもたくさんあったことが原因だと考えられる。しかし、朝や昼休みの時間を使って、もっと積極的に訪問ができたら、なお良かっただろう。

★ケア

●ケアとは？

ケアとは、シェーナイナイというおばあちゃんの身の回りのお世話をすることである。シェーナイナイは94歳と高齢で、後遺症も重いため、自分で体を拭いたりすることができない。綺麗好きなシェーナイナイが気持ちよく生活できるようにケアを行った。

●主な活動

①傷の手当

シェーナイナイの足にある傷がなかなか治らないため、治療が必要となる。治療の内容は、傷を消毒し、薬を塗って、新しい包帯を巻くというものである。傷の手当てには大量の薬が必要となるが、薬は高価なため、金銭的問題が残る。

②身体を拭く

綺麗好きなシェーナイナイのために、彼女の体を拭くのを手伝った。バケツにお湯を汲んで、そのお湯で髪の毛を洗い、身体を拭いた。身体を拭く度に気持ちよさそうな顔をするナイナイが印象的だった。

③散髪

ナイナイの髪が伸びていたので、散髪をした。すごく短くなったように思えるが(笑)、ナイナイは喜んでいたので良かった。

★エンターテインメント

エンターテインメントとは？・・・キャンプとは、ワークとハウスワークが全てではない。キャンパーたちの間の壁を取り払い、キャンプの毎日をより楽しくする、それがエンターテインメントなのだ。

朝の体操

朝食前のエクササイズの時間に行った。中国人キャンパーと日本人キャンパーが交代でteacher になり、私たちは「マル・マル・モリ・モリ！」「ラジオ体操第一」を教えた。

キャンプソング

「相亲相愛」、「マル・マル・モリ・モリ！」の２曲をキャンプソングとして、食事の前には毎回キャンパー全員で歌った。時にはダンスを交えたり、皆で輪になって按摩（マッサージ）をしながら歌ったりもした。

ハンチョンカップ

キャンプ中のフリーデイにキャンパー全員でサッカーゲームを行った。ボールは木になっていたみかんで、ゲームが進むにつれて爽やかな香りが辺りに漂った。

ゲーム

夜のミーティング後に行った。ゲームのほとんどは中国人キャンパーに教えてもらった。夜のテンションときわどい punishment（罰ゲーム）のせいでとても盛り上がった。

日本食

キャンプ中に２回日本食を作った。メニューはカレー、お吸い物、サンマ缶など。カレーは特に中国人キャンパーから好評で、作る前から「今日カレーなの？」と聞いてくる中国人キャンパーもいた。

パーティー

旱冲村滞在最終日の前日、村人を招いてパーティーを行った。キャンパールームの回りを飾り付け、キャンパーが歌やダンスをお披露目。日本人キャンパーは「上を向いて歩こう（中国語版）」「ソーラン節」を披露した。

★JIA　Annual General Meeting

JIA は中国南部を中心に活動する団体で、広州地区、湛江地区、桂林地区、南宁地区、吉首地区、海口地区、宜昌地区、長沙地区に分かれている。AGM ではこれらの地区のメンバーが一堂に会し、1 年間の活動報告や他の地区との交流を行う。

今回は JIA と国際キャンプを行う団体として JIA のことを知り、また今後のキャンプを考えていく契機となることを目的として参加した。

	午前	午後
23 日	顔合わせ、ゲーム	
24 日	JIA 活動報告	各地区委員会活動報告、ムービー鑑賞
25 日	グループディスカッション	パーティー

JIA の各地区委員会活動報告においては、私たちが協力している桂林地区の現在の体制、状況、問題点等を聞くことが出来て今後の参考になった。同じ時間に FIWC 九州委員会の発表も行ったため、日本人とのキャンプ経験がない中国人キャンパーに知ってもらえる良い機会になったと思う。

また、AGM では 3 日間様々なキャンパー達と共に過ごせるため、今回のハンチョンキャンプ参加者以外の桂林キャンパー、他の地区のキャンパー、他の FIWC 委員会の人々と交流が持つことが出来、次につながる経験となった。

JIA 活動報告！

Party ♪

★キャンプTシャツ

FIWC 九州

2012 夏中国キャンプ T シャツ

今回私たちはオリジナルの T シャツを制作した。福岡の T シャツプリント会社に依頼し、注文から納期までは 1 週間弱。

デザインはキャンパー全員同じだが､T シャツの色を一人ひとり別々にした。また、プリント色も T シャツの色の濃淡によって黒と白とに分けた。

T シャツ表の上部には "FIWC Kyushu" と、今回のキャンプのテーマ："MOVE -感動-" を、中央右部には FIWC のキャンパー全員の名前を、下部には "2012.8 China Camp" "Fukuoka⇒Hanchong" という文字を置いた。中央右部には福岡から旱冲に矢印を伸ばした地図をデザインした。

家-JIA- 桂林地区 T シャツ 2012

JIA の各地区委員会は毎年オリジナルの T シャツやパーカーを制作している。今回私たちは、共にキャンプを行ったキャンパーの所属する JIA 桂林地区委員会の T シャツをもらった。

T シャツ表のロゴは太陽をかたどったもので、JIA 桂林地区が訪問を行っているハンセン病回復村の名前（甲坪、平山、旱冲、etc）が太陽から射す光として描かれており、裏にはハート型に囲まれた "家" のロゴがデザインされている。左右にポケット付きという便利さと、フード付きという可愛さも兼ね備えている。フードを被るとあなたもほら、机器猫（ドラえもん）。

★保健報告

〈今回見られた症状〉

症状	原因	対策
体調不良	バス酔い	酔い止めの服用
腹痛	食べ物	
胃痛	食べ物	
疲労	過度なワーク	水分補給 ワークの時間を調整する
切り傷	ワーク中扱う斧等	毎回軍手の着用
虫刺され	山の中でのワーク	長袖長ズボン着用
負傷(足の指)	山の中でのワーク	必ずスニーカーを履く

～全体考察～

体調不良や、疲労がキャンプ中もそうでない時も見られました。慣れない作業や、慣れない場所での生活に体調を崩してしまいます。しかし少しでも体がおかしいと感じた時にみんな伝えてくれたので、周りで早めの対処ができました。症状はたくさんありましたが、引きずらないですぐに回復できるパターンが多かったです。

～反省～

全部が全部防げたわけではありませんが、少なからず防げた症状もありました。今回は雨が降ることがキャンプ中に多く、気温の高低差が大きい日も続いたので気温や天候にあった服装をするということが難しいキャンプだったように思います。症状が長引くことが少なかったことはよかったと思います。

★会計報告（一人当たり）

～日本での出費（円）～

飛行機代	62626
ビザ代	3000
保険代	約 4000

～中国での出費（円）～

ホテル代

上海	138
広州	50
桂林	12

食費

キャンプ前	13.2
キャンプ後	47.6

交通費

バス	2
電車（長距離）	184
電車（中距離）	17

＊電車（遠距離）は桂林～ハンチョン間

参加費

キャンプ参加費	237
AGM 参加費	290

＊キャンプ滞在期間 8 日間

＊AGM 参加期間 3 日間

キャンプ後

上海観光（入場料）	100

＊タワー入場料

一人当たり合計

62626＋3000＋4000＝69626(円)

138+50+12+13.2+47.6+2+184+17+237+290+100=1090.8（元）[14398.56（円）]

＊1 元=13.2 円

69626+14398.56=<u>84024.56（円）</u>

★反省

今回のキャンプを振り返って、改善すべき点を考えた。一人一人の反省点は様々で、中には矛盾しているものもあるが、今後のキャンプで役に立つと思われるものを抜粋した。

①　キャンプ前段階での準備不足

・中国側との連絡が少なかったため、十分な準備ができなかった。
・チャイナキャンプに関する情報共有が不十分だった。
　→旧キャンパーとの交流の機会を増やすべき。
　→チャイナキャンプの意義などを話し合うべき。
　→以前の報告書を見るべき。
・ミーティングに参加できない人がいた。
　→ミーティングの日にち（帰国後ミーティングも含む）を最初に決めておくべき。
・ダンスの練習ができなかった。

②　コミュニケーションにおける問題

・日本人だけでかたまりすぎた。日本語を話しすぎた。
・村人や中国人キャンパーとコミュニケーションをとるのに、偏りがあって公平でなかった。
・眠気のため、夜のミーティングに集中できなかった。

③　中国人キャンパーに頼りすぎた

・荷物の運搬や生活面で必要以上に頼った。
・ワークやハウスワークが中国人キャンパーに集中していた。
・キャンプを作るという意味で頼りすぎた。
　→主体的にキャンプを作るべき。

④　時間にルーズ

・ジャパニーズミーティングをほとんど開けなかった。
　→ジャパニーズミーティングを開く時間を工夫すべきだった。

⑤国内係との連絡不足

・メールを送る回数が少なかった。

⑥安全面での配慮不足

・病気のキャンパーを病院に連れて行けなかった。
・危ないワークに軽装で行かせてしまった。

★キャンパー紹介

落石桃子〈リーダー、KP〉

いつもにこにこマイペース"MOMOGO"！(笑)その、のほほーんとした雰囲気でみんなを和ませてくれます。常に冷静沈着なももちゃんはこのキャンプにいなくてはならない存在！記憶力と変顔のクオリティーはだれにも負けない！頼りになるリーダーです。by じゅん

高橋千秋〈ハウスワークリーダー〉

出発日に全身ピンクの格好で現れたぴっちゃん。国籍を問わず、人のおもしろいとこ・良いとこを見つけてどんどん絡んでいくぴっちゃん。毒舌や変態発言が目立ちますが、本当はとっても思いやりのある女の子です。彼女の周りではいつも笑顔が絶えません(^^)　by さわ

姫野早和〈ワークリーダー〉

どんな人とも仲良く接してくれるさわちゃんです。おっとりしているので、見ていて癒されることも多々ありますよ～さらに、ものすごいほどの方向音痴です（笑）

by ゆう

藤崎絢子〈写真係〉

根っからのアウトドア派なじゅんちゃん。バックパックから出てきたはヘッドライト、シャボン玉、サンマ缶、ビーチボールなどなど。じゅんの鞄って魔法の鞄みたいね。パズーのよりすごいと思う。

キャンプ中の村人や中国人キャンパーとのコミュニケーションは言葉より行動。タンボウの養子のハイフォンや、わんこと仲良く遊んでる姿は実に微笑ましかったよ。By のんの

武田まり乃〈エンターテイメント〉
何事にも一生懸命に取り組む姿に感動します。キャンプ中はエンタメ係としてそのリーダーシップを発揮し、 思わず将来を嘱望させる程のできる女的雰囲気をも纏わせちゃう才色兼備なのんの!! が、お酒を飲み過ぎるとちょっと違った一面も。。。 笑（by ひろぽん）

津山雄一朗〈保健、会計〉
ひろぽんと仲良し、朋友(ぽん ゆー)コンビ☆ 出発前は大人しい子だったのに、今や腹黒疑惑(笑)でも誰よりも働いて、体調を崩すこともなく、一番安心して見ていられるメンバーでした♪皆に優しいからちゃいにーずからも人気だったね！ゆーちゃんと一緒にキャンプ行けて良かったよー(^O^)by ももこ

日高裕允〈記録係〉
おっとりしているように見えて、やるときはやる男。いじられキャラは生まれ持ってのものなのか、中国人からもいじられていました。いつも笑いの中心にいましたが、たまに笑顔がひきつっていることも…？！みんなが彼の名前を呼びたくなるような、愛すべき人です。 By ぴっちゃん

★感想

今回のキャンプは私にとって 3 回目のハンチョン村。まず村に到着した時に村のおじいちゃん、おばあちゃんが私の名前を覚えていてくれたのが何よりも嬉しかった。

今回はリーダーとして臨む本キャンプだけれど、変に気負い過ぎず、なるだけ多くの時間を村人と過ごし、自分自身が一番楽しめるようにしようと心の中で目標を決めていた。だから今回は近くに中国人キャンパーがいなくても、機会があれば積極的に 1 人で村人のもとへ行った。でも私は中国語が話せないから黙って彼らの生活を見ていることも多かった。そうすると、普段キャンパーが訪れていないときの生活が少し実感できた。家の中に光は差し込まなくて、聞こえる音は風や動物の鳴き声だけ。それが寂しい、とかかわいそう、とかそういうことではなく、この生活が村人にとっては当たり前で、私たちが訪れていることの方が非日常なのだなあと。そんなことを考えていたら、ほんの少しの間だけど、キャンプ期間中だけでもわいわいとした楽しい時間をいっぱい過ごしたいという思いが込み上げてきた。そして、また私たちが訪れるのを楽しみに生活してくれたらいいな、と思って。

本当は私は今回でもうこの村には行かないつもりだった。一人で簡単に行けるところではないし、これからは自分の将来のことも考えなくてはならない。でも、今回行って、やっぱりまた戻りたいと思った。回数を限った絆なんておかしいと思った。だから、しばらくは行けないけれど今度はこの繋がりが続いていくようにキャンプをサポートしたり、国内での活動にまずは力を注ごうと思う。

最後に、かなーり頼りないリーダーだったけれど今回色々な面で支えてくれたぴっちゃん、さわちゃん、じゅんちゃん、ゆーちゃん、のんのん、ひろぽん、そして国内係のりほちゃん、ありがとうございました！

(ももこ)

2012 年の 8 月は、とてもおもしろい強烈な夏であり、人生の方向を決める一つの道標となるような貴重な夏でもありました。

私がチャイナキャンプに参加するのは今回で3回目ですが、昨年とは違った気持ちでこのキャンプに臨みました。2月に下見キャンプに参加したので、キャンプを「作る」という気持ちでした。リーダーのももちゃんが本当に頑張ってくれたので、少しでもそれを手伝えればと思っていました。その点で、大きな責任感があったと思います。それは楽しいものではなく、時にはもう嫌だなと思うこともありました。だけどキャンプを終えて振り返ってみると、大きな達成感に満たされています。この達成感を味わえたことが嬉しいです。

このキャンプでは、たくさんの出会いがありました。先輩が言われていたように、メンバーが違うとキャンプもがらりと変わります。昨年と同じ村に行ったのに、全く違う風に見えるものがたくさんあって驚きました。また、たくさんの再会もありました。村人達が私のことを覚えていてくれた。私の名前、私と話したこと、村に来た回数を覚えてくれていた…。そのことは、私が村に来るのを彼らが楽しみにしてくれているということを示しているように思えて、とても嬉しかったです。何もわからないまま、やみくもに精一杯やったことが、実を結んでいたのかなと思いました。

最後に、このキャンプを通して、人を大切にすることがどういうことなのかを学びました。村人や中国人キャンパーは、真っ直ぐな心で、大きな愛を持って私に接してくれます。彼らと過ごしていると、言葉は通じなくても、自分が大切に思われているんだなということが伝わってきました。そして、私も彼らを大切にしたい、そのことを伝えたいと思うようになりました。自分が大切にすべき人をしっかり大切にする、その方法と重要性、さらに難しさを学びました。それに気づかせてくれた皆に感謝します。

(ぴっちゃん)

私にとって三回目の中国キャンプは、本当にあっという間に過ぎてしまった。一日が終わるたびに、もうこんなに時間が経ったのかと驚いていた。そして終わりが近づくにつれ、もっと長くここに居たいと思っていた。

私がこんな風に感じていたのは、ただ単純にこのキャンプが楽しかったからだと思う。村人の家に顔を出すと、彼らはいつも「入っておいで」と手招きし、家の中に椅子を用意してくれた。一緒にご飯を食べるときは、「たくさん食べなさい」と大量のおかずをとって

くれた。言葉が通じなくても身振り手振りで意思をつたえようとしてくれて、私が理解するととても喜んでいた。彼らはとにかく温かい。村人たちを少しでも多く笑顔にしたいと思って臨んだこのキャンプだったが、いつも私が笑わせられていた。彼らと過ごした時間は、本当に幸せだった。

彼らは今も中国の山奥で生活している。キャンパーのいない村はきっと静かなのだろう。村を離れるとき、私はここで暮らせたらいいのにとさえ思った。今思えば、このときの気持ちは、昔祖母の家を離れるときに感じていたものに似ている。いまやハンチョン村はそういう場所なのだ。「帰ってきたかったら、帰ってくればいいだけだよ」という村人の言葉が忘れられない。

同じキャンパーたちが同じ村に行き続けることは難しい。しかし、その意思は引き継ぐことができる。村人を笑顔にしたいというキャンパーがまた新しいキャンプを築いてくれたら、私はとてもうれしい。中国キャンプの意味は、『続いていくこと』にあるのだと私は思う。
(さわ)

このキャンプに参加する前、私は中国はあまりいいイメージのない国で、ハンセン病のこともあまり知らず、自分にできることがあるのかと不安だった。

でも、その考えは村に行ってすぐ変わった。中国人キャンパーや村人は初めて会った私にも優しく、当然のように受け入れてくれた。私が逆の立場だったらこんなに親切にできるだろうか？と考えるくらい彼らは優しく、温かかった。出発前はおじいちゃんたちの生活を手伝うというイメージだったけど、そうではなくて逆に一緒に生活して生きる知恵をたくさん教えてもらった。村にいるとお湯でお風呂に入れる幸せ、光がある幸せ、ごはんが食べられる幸せ、人がいるしあわせ、、日本では当たり前のことがうれしくて、大切で、ほんとは当たり前じゃない事だと気づけた。
ただ今回はみんなに頼りすぎて、たのしい！という感情ばかりだった気がする。
もしまた参加することできたら、つぎはもう少し頼りになる存在になれたらいいな、と思う。
ワークキャンプに参加して、こんなに素敵な出会いがあふれているんだから、自分の周りだけで満足して殻に閉じこもっているのはすごくもったいない。これからはいろいろなこ

とに挑戦し、もっといろんな世界を見て、たくさんの人と出会いたいと思った。そのときは村人やキャンパーがしてくれたようにその人たちを大切にしようと思う。そして今回のキャンプで出会えた村人、中国人キャンパー、日本人キャンパーとのつながりもずっと大事にしていきたい。

間違いなく、この夏の思い出は私にとって一生忘れられない出来事になりました。
(じゅん)

「違うこと」と「同じこと」------私がキャンプ中に最も考えたことの一つです。

　出発前、私の心情は複雑でした。なぜなら異国でのキャンプ、日本人同士でもきちんと理解し合うのは難しいのに、中国人キャンパーや村人と交流するのは相当難しいのではないだろうかと感じていたからです。　そして実際にそれはとても難しいことでした。キャンプが始まり違いの多さに戸惑いました。言葉や生活、考え方、挙句の果てには価値観まで異なる環境の中で活動をし、交流をする、キャンプ前半はその違いにのまれながらで生活するのに必死でした。でも、終わりに近づくにつれてその違いの中にも同じものがあるかもしれないと思えるようになりました。日本人キャンパー、中国人キャンパー、そして村人みんなそれぞれ違うことをしていて、言葉もあまり通じない、そういう状況にあっても”分かり合えている”瞬間があるように感じてきたのです。

”本当に”分かり合えていたのか、同じものとは何か、それらをきちんと理解するのはとても難しいであり、不可能とさえ思えます。　でも、少なくともその瞬間を感じることができたことは、私がこのキャンプに参加して良かったと感じる大きな理由の一つであることに間違いないと思います。(ひろぽん)

今回チャイナキャンプに参加した理由は、中国が嫌いだったからでした。昔から中国に対しては、メディアの報道による情報でいいイメージを持っていませんでした。それで実際に自分で中国を感じてみたいと思いました。観光よりはボランティアとしていった方が深い旅になるのではと思って参加しました。

実際に中国に行ってみると、日本の人たちよりも中国の人たちは持っていました。日本がよく心は貧しいと言われるのが何となくわかった気がします。それと、行ってみて強く思ったのが、言葉での弊害は確かにあるけど仲良くなったり、言い合ったり、泣きあったり、いろんな感情を共有できる不思議に感動しました。もっと長くいたいと思ったし、もっとできることはあったはずだったなと後悔したりしました。チャイナキャンプを通して、楽しいのはもちろんのこと、多くのことを学んだり考えたりできました。中国で学んだことを、中国で終わらせることなく、これからの自分の水準に落として考えて活用していきたいです。そうすることで、このキャンプがもっとより良いものになると思ってます。

そして、何より今回のキャンプに参加してこんなに実りあるキャンプになったのは、周りのメンバーがいてくれたからです。キャンプ中も楽しみだけになってしまっていた時に、喝を入れてもらったりもしました。周りのみんなの考え・行動ほんとすごかったです。楽しいだけで終わらず、多くのことを学べて、これからにも生かしていけるそんなチャイナキャンプに行けて本当に良かったです。(ゆう)

前々から、機会があれば海外に行ってみたいなぁと思っていた。今回を中国選んだのに大した理由はなかった。大学に入って、偶然知った FIWC 九州の海外ワークキャンプに興味を持って、海外に行けるチャンスだと思って参加を決めたけど、ハンセン病のことや回復者支援のことに特別関心があったわけでもない。

日本を出発し中国に着き、村に入った最初のうちは、中国人キャンパーとの英語での意思疎通がうまくいかなかったり、村人の話す言葉がなにひとつわからなかったり、足がた

くさん生えている虫に顔の上這われたり、日本のお盆がすごく恋しくなったりして、どうしようもなく日本に帰りたいと思った。どうしてキャンプに参加したのかわからなくて、キャンプソングのマルマルモリモリをひとり歌って自分を励ましていた。

けれど時間の過ぎると共に心配事は少しずつ薄れていって、キャンパーたちとは毎日寝食を共にするうちに当たり前のように仲良くなったし、そうなるとワークもハウスワークも村での生活も楽しくて仕方なかった。村人の話す言葉は相変わらずわからなかったけど、一緒にトランプをしたりごはんを食べたりしているうちに、自分のおじいちゃんの家に来ているような心地よさを感じるようになった。隣にいて笑ってくれるとほっとした。チェンボウがワークの様子を見に来たこと、ガンボウとピーナツを賭けてトランプをしたこと、タンボウが果物をくれたこと、サンスーがごはんに誘ってくれたこと、ナイナイが耳かきを喜んでくれたこと。村の滞在は短かったけど、嬉しいと思うことがたくさんあった。ハンチョン村滞在最終日には帰るのが嫌になった。

夏休み中国にワークキャンプに行った、って友達に言うと、大体は「すごいね」って返事が返ってくる。けど、誰が言っていたか、私たちのキャンプは少しまとまった時間とお金があれば誰でも参加できるものだ。私はキャンプを楽しんだけれど、村人や他のキャンパーはどう感じただろうか。答えはないものの、たまにぼーっと考える。またキャンプ行きたいなぁ。ハンチョンにも帰りたいし、他の国にも。(のんの)

Not Only Volunteers,
But Family.

FIWC　九州

（フレンズ国際ワークキャンプ九州）

Mail:fiwcq@hotmail.com
Web:http://fiwckyushu.web.fc2.com/
Twitter:@fiwckyushu

（中国キャンプ最新情報）

Blog:http://fiwcqc.exblog.jp/

[参加メンバー]
落石桃子　九州大学法学部 3 年
姫野早和　九州大学農学部 2 年
高橋千秋　九州大学法学部 2 年
藤崎絢子　福岡大学経済学部 2 年
武田まり乃　西南学院大学文学部 1 年
津山雄一朗　九州大学工学部 1 年
日高裕允　九州大学経済学部 1 年